

研究機関名：誠愛リハビリテーション病院

研究課題名 段差降段動作における骨盤側方傾斜 ～段差の高さの違いによる検討～
研究期間 西暦 2013年10月～2015年9月
対象材料 三次元動作解析装置を用いた階段降段動作の運動力学的解析 上記材料の採取期間 西暦 2013年10月～2015年9月
意義・目的 階段降段動作の研究は、下肢に着目した研究が多く、体幹・骨盤のアラインメントの変化についての報告は少ない。しかし、実際の臨床場面では体幹の機能障害により、階段降段動作時に頭頸部や体幹の鉛直位保持が難しく動作の安定性が低下している症例を経験する。このような症例に対し、階段降段動作における骨盤の選択的な側方傾斜運動を獲得することで体幹の鉛直位保持が可能となり動作の安定性が向上することがある。そこで今回、健常者にて、段差降段動作における骨盤側方傾斜及び体幹側屈角度の変化について研究したいと考える。また、骨盤側方傾斜が階段や段差降段のために生じるものであることを検証するため、段差の違いによる検討もおこなう。
方法 当院の三次元動作解析装置（VICON MX）、床反力計（MSA-6）を使用し、身体に貼付する反射マーカ―は臨床歩行分析研究会が提唱する DIFF マーカ―セット（マーカ―数 11 個）を使用し、計測課題としては一段の段差を自由な速度で降段する課題とし、装具や杖などの補助具及び手すりは用いず、裸足で計測する。段差は、リハビリテーション室にある台を使用する（8cm、18cm、45cm の高さ）。
本研究の問い合わせ窓口 誠愛リハビリテーション病院 リハビリテーション部 理学療法士 水上 俊樹 〒816-0956 福岡県大野城市南大利 2 丁目 7-2 TEL 092-595-1151 FAX 092-595-1199 E-mail kenkyu@seiai-riha.com